調査報告書は
地盤調査のすべてのデータを記載する一次データ集

調査現場で記入する項目
1）物件情報（新方式とする）
2-1）SWSデータを自動記録するタイプ（少数）
2-2）SWSデータを調査員が紙に記入するタイプ（多数）
の二つの方式がある

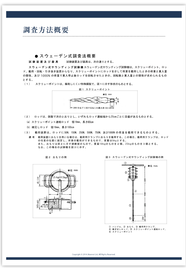
調査報告書は現場ではメモ書き
事務所に戻ってから
3－1）調査した本人が作成
3－2）調査会社のスタッフが現場のメモを元に作成
の２通りがある。

この調査報告書はHTMLデータを基本として
工事判定の一次資料として参照される。
また、プリント出来るようにする

← 調査対象と日付は自動挿入

← 調査内容はSWSを扱う時に自動挿入

← 調査担当を記入



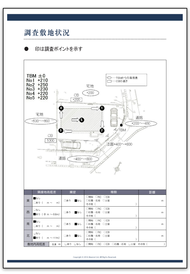
← 「申込書」の物件情報を元に
緯度経度から map を表示
ブラウザのマップ表示と同じ

← 緯度経度から調査申込物件を特定
物件情報などを取得

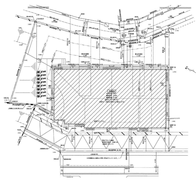
緯度経度欄を追加
住所欄を追加
住所は　☐未確定住所　☐確定住所
のいずれかをチェック

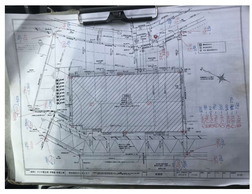
新規造成の場合、住所の番地が確定していない
場合がある。そのため、住所を基準とせず、
緯度経度を元に地図を表示する

← 地盤安心マップへのリンクは削除

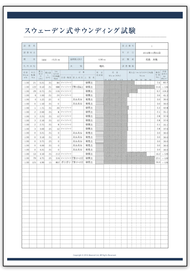


← 「申込書」の物件情報にデータがあれば流用
無ければ後で追加
調査担当者が入力、または調査会社のスタッフが
作成する





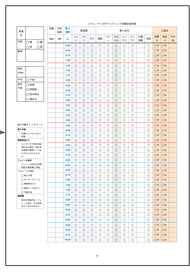
← 仕様書のように
チェックマークで入力



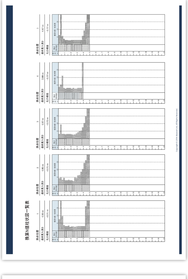
← 右のような手書きのデータを
転記＝入力する
（本人または調査会社のスタッフ）
この手入力画面は別途用意します。

← 自動で記録されるタイプは
データをSJSに転送
その後、左の様式に沿って
出力する
データは「SWS予測システム」
と同じはずです。

手入力画面



report.xlsx



← 柱状図はSJSで自動作成

← 写真をリンク
画像データはストレージ・サーバーに保管